



第 37 号

発行所
全国曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝
2-5-2 曹洞宗宗務庁内
編集発行 全国曹洞宗青年会
TEL. 03-454-5411(代)

第五期を振り返って

—— 出合い・素晴らしい仲間 ——

全曹青会長 桜井孝順

今日ほど社会の進展変貌の甚しい時代はない。バラ色の未来を夢みていた高度成長時代は、いまや過ぎし日の夢物語と化している。

世の中がどんな方向に、いつどんな風になるかは誰も知らないところである。私達にとって大事なことは、どんな変化にも適応できる力量、よりの確に云えば時々刻刻に変わる環境を意のままに自由に動かしていく「随処作主」底の主体性を把握するしかない。「いまここに」青春のエネルギーを完全燃焼させる場を造り出すことであらう。

青年宗侶として各曹青活動で養った自己啓発の蘇生を現代社会の中へ青年らしく発揮する機会を求め二十一世紀こそ心の時代と提唱

し、私達の勇氣ある提言、情熱あふれる行動が、權信徒に「みなぎる生命のオアシス」を示すことが出来るのであろう。

昭和五十年晩秋、全国曹洞宗青年会設立総会以来、四期に亘って一環した「大衆教化の接点を求めて」のスローガンのもと、先輩諸兄が、御尊宿並びに会員各位の御指導、御協力を得、社会のニーズにこたえるべき教化宗団の先兵となつて、禪のつどい中央研修、禪文化とのふれあいを求めた禪文化学林の開催等々、子供達に、そして禪を求め人々に、「生きた仏教」の要素を示す努力を積まれてまいりました。

昭和五十八年度総会に於いて、第五期現執行部就任以来、「厳しい

自覚で教化の実践を」をテーマに過去の実績をふまえ、青春のエネルギーの結集と自覚を求め、連携を深めるべき活動を展開してまいりました。各管区ごとに開催されている地方集會に本部役員として参加する中、全曹青への理解を深めてもらう努力もみのりつつあり、又、宗門の明日を担う若き宗侶の

資質の高揚や相互の連帯と親睦を深める集會が地方のニーズに沿って企画・運営がされている姿に感懐するものであります。二年間に亘つての「食キャンペーン」も、各理事の指導力で本部と各地曹青のパイプを太くする原動力になったのだと確信しております。

全曹青の命脈と存在の意義を問われる時、地方曹青と密着した事

業展開を望む声が理事会・評議員会の席上、積極的に発言がなされ、創始の精神を生かすべく、この十年間の集大成を創立十周年記念事業へと進めてまいりました。

幸いに全曹青発足当初より事業に精通している松倉・南両師に実行委員会を構成していただき、四つの記念事業を企画したところ、宗務庁、内局各位の支援で特別助成もいただき、くことが出来ました。

第一の事業は、「夏休み親子洋上セミナー」でありました。無着成恭・渡辺長武先生に同行いただき沖繩への船旅でありました。全国より二百名を超す子供達が沖繩の大自然とふれあい、又、今の日本の礎と散ったヒメユリの塔で涙を流す子供すらありました。

第二に、単位曹青の情熱の結晶であるセミナー等で出講された講師の先生方の貴重な講演を集録し一冊にまとめました『緑蔭説法』の出版でありました。

第三には、メイン事業となった、『この愛らしき野の仏たち』——ほほえみの石仏展——は三ヶ月余、全国石仏巡礼を重ね、より大衆性を求め、読売新聞、小田急を始め文化庁の後援を頂きマスコミの御尽力で創立よりめざしてきたスローガンが花開いた感じがします。

第四には、『第七回禪文化学林』を大雄山山主余語翠庵老師、松田

文雄駒大教授を招聘いたし、天童寺拝登の研修でありました。

四つのそれぞれの事業をす、めるにあたり、あるときはおしかりをいただき、あるときは絶賛をいただき、数えきれない多くの御縁で皆様と出合い、全曹青こそ、共に日本人の心の中に真のまごころとやさしい仏の慈悲に満ちたほ、えみを芽ばえさせていける、益々の青年宗侶らしい勇氣と情熱を発揮出来る舞台が待っていると思えます。最後に私達いたらぬ執行部を叱咤激励いただきました同志の暖かい御愛愛に感謝し、明日へ向って素晴らしい仲間御多幸をお祈り申し上げます。

- 副会長 松岡 秀雄
- 同 大谷 俊定
- 同 峰岸 秀哉
- 事務局長 新美 忍雄
- 同 次長 大海 修一
- 監査 佐野 令彬
- 同 菊地 伯也
- 同 総合企画委員長 菊池 祐光
- 同 研修委員長 安藤 実英
- 同 事業委員長 宇野 全匡
- 同 広報委員長 平和 宏昭
- 同 組織委員長 小原 宜弘
- 同 特別事業委員長 松倉 絃洋
- 同 副委員長 南 敬爾
- 執行部一同深くお礼申し上げます。 合掌

昭和59年度後期

禅のつどい中央研修会

東日本 西日本で開催



食を見なおそう！

福岡大会

昨年度から、「食」の問題を提起して、地方へ分散し開催された後、期禅のつどい中央研修会・仏教セミナーの本年度西日本会場は、九州曹青が主管して一月三十日・三十一日の両日にわたり、福岡市の明光寺において、五十六名の参加者を得て開催された。開催日前日、一時的に時ならぬ大雪が降って参加者の出足が心配されたが、当日は雪は解けたものの厳しい寒さの中で、四国曹青、近畿曹青諸兄の参加によってようやく予定人員を超え、関係者一同安堵した次第である。

本会場のテーマは、「食事をみなおそう」と題し、現在家族の楽しいコミュニケーションの場としての「食卓」が失われ、おとな不在の朝食や夕食によって、子どもたちの心と身体がむしばまれようとしていることを憂い、食事を通して親と子の関わり、生命の大切さについて考えてみることにした。

第一日目は、まず中学校教諭で本宗寺院住職の仲秋喜道老師による「今、子供たちは」の講演で、生活指導員の目から見た非行化が進む教育現場の報告がなされ、子どもたちの非行化は、食生活のくずれに起因すると指摘された。次に、今の子どもたちがどんな食生活をしているかを調査し、子どもたちの食生活の実情を報告したNHK特集「子どもたちの食卓」のビデオを視聴し、引き続き曹洞宗婦人会常任講師の阿部圭佑老師に、「食事を見なおそう―典座教訓より」と本会場のテーマで講演を賜り、老師は一粒の米、一つの野菜にも命を見いだし、宇宙のすべてに生命が宿っていることに気付かなければならないと諭された。薬石後には、三人の講師を囲んで講演内容を基にしたシンポジウムを催し、食生活のくずれに起因するといわれる非行問題や躑等について意見を交換した。

第二日目は、九州管区教化センター主監の瀧 孝道老師に、研修のまとめとして「食について」の講演をいただき、老師は正しい食事作法について、まず私達自身が行っているのかと厳しい指摘があり、正しい作法は私共自身から、寺から行わなければならないとして、私共の命をつなぎ、その命を次の世代につないでいくのが「食」

であることとめられた。続いて各地の緑蔭禅のつどいの事例報告及び昨年度開催された関東会場研修会「母と子のちかいのつどい」のビデオを視聴し、一泊二日の有意義な研修会・セミナーを終えた。今回の研修会・セミナーは、多数の参加者から好評を得た。それは、「食」という私達にとって非常に身近な問題を取り上げたからであらう。何故ならば、私達は必ず一日に三度の食事を行っている。ところが、私達はあわただしい毎日の生活の中で、つい食事をないがしろにしてはいないのか。生きのために食べるのではなく、空腹を満たすために食べているのではないだろうか。そこには、家族間の楽しいコミュニケーションがあるはずもなく、ひいては家庭の崩壊につながってくる。このコミュニケーションが欠けたことに原因があるのでとは指摘される今日の非行問題は、一般家庭の問題ではなく、私達僧侶の家庭の足元にも及んでいる。いみじくも、瀧老師が述べられた「正しい食事作法を私達自身が行っているのか」の言葉に、檀信徒に対して生きた教化が出来るのではないだろうか。九州地区のある単位曹青では、「食」のテーマをこのままに終ることな

く、今後も推し進めて行くこと
の動きがあり、九州地区集会でも、
「食」の問題を取り上げる予定であ
る。それは、「食」が社会性を持ち
且つ人間の存在の根底を明らかに

し、共に家庭にもち帰って実践出
来るものだからである。

(記・久賀永雄)

私にも出来る

カウンセラ

神奈川大会

このたびの研修会は、三月七日
(木)と八日(金)、一泊二日で、箱
根湯元温泉のホテル「おかだ」で
開催された。

テーマを「アフターケアとして
でのカウンセリング」として、禅
のつどい終了後に問題となる、参
加者の指導方法の一環を学ぶこと
を目的としていた。

昼を過ぎると、華やかなホテル
のロビーに、参加者が到着を始め
た。

一時に受付を開始して、七十余
名の参加を得、二時に七階のスカ
イホールで、開講式を行なった。
テーブルは純白なクロスが懸かり、
その上の湯茶の用意も、ホテルの
細やかな気配りだった。

桜井会長は、年間に全国で、約
三百会場で禅のつどいが開催され
ている。厳しい自覚で教化の実践

を」としているスローガンに、正
に相応しい「場」がある。こうし
た場を通して、私達は衆生を利濟
すると同時に、明日の宗門のため
に、生命の光を灯さなければなら
ない、と挨拶を行なった。

講師の一人である乾 雅宏先生
の講義は、「カウンセリング入門」
……実技を中心として……だった。
第一講の突然のユニークな実技は、
カウンセリングが全く素人の私達
に、興味を抱かせるに、充分だっ
た。

駒沢大学助教教授である篠原英寿
先生は、「禅とカウンセリング」と
題して、ロジャース・Cの基本的
仮説を中心に、講義を行なった。
それは、

- 一、個人は、成長・健康・適応
へと向う資質を持っている。
- 二、適応の知的側面より、情緒

的側面を強調する。

三、非指示的カウンセリングは、
個人の幼少時の外傷的経験
よりも、主として、現在の
直接の場面を強調する。

四、治療的関係、それ自体が成
長の経験である。
との説だった。

東京へ法要のためにお出かけに
なられた、余語翠庵老師の御到着
が遅れたので、予定を変更して、
入浴を了ませた。大浴場から眺め
ると、山の裸木が夕空に寒そうに
震えていた。

余語老師の題は「閑」であり、
大智禪師の「仏誕生」を先ず示
された。それは、

閑浮八万四千城、
不動千支致太平。
活捉猩猩白拈賊、
雲門一棒不虛行。

である。我々は八万四千の煩惱
がある。この煩惱を断じて菩提を
得る、などという戦争はしないで
もいい。釈尊が成道した時、大地
有情無情同時成道と言った。仏の
方から見れば、あらゆるものみな
悟りの中にある。人間本来何不足
ない悟りの存在であるものを、勝
手に迷いや悟りがあるようなこと
を言いたした。と前置きして、宗
意安心を説かれた。

山主老師や講師を囲んで会食を
行ない、終つて、乾先生との自己

研修会・情報交換会・そして、次
期役員選挙委員会が、それぞれ開
かれて開枕となった。

翌日、篠原先生が「治療におけ
る人格変容の必要にして十分な条
件」は、

- 一、二人(師・学人)の人間が
心理学的に接触を持っていること。
- 二、クライエントは、不一致の
状態にあり、傷つきやすい、
あるいは不安の状態にある
こと。

など六項目を挙げ、更に『正法
眼蔵・菩提薩埵四攝法』の「一者
布施、二者、愛語、三者、利行。
四者、同事」こそカウンセリング
の世界である。この菩薩の誓願を
現在に活用して、工夫辨道するこ
とが、衆生を利濟するのだ。と結
論づけた。

続いて乾先生は、友田不二男氏
の論文「非指示的療法」を参考に、
非指示的見地とロジャース、基本
的仮説、非指示的諸技術、そして
非指示的見地とロジャース、基本
題など、御自分の体験を通して、
講義された。

こうして、心掛ければ私達もカ
ウンセラになれる、と期待を抱
かせて、研修会の幕を閉じた。

(記・峯岸秀哉)

2台で1セット

● 使用時・高75cm×間口60cm×奥行40cm
● 収納時・タテ85cm×幅60cm×厚サ8cm

- Aタイプ 55,000円 (ハト返し有り)
- Bタイプ 50,000円 (ハト返しなし)

● 1台のみの場合は半額 ● 色は、黒色
溜色・朱色

■ 申し込み資料請求はハガキにてどうぞ。

株式会社 サヤック インターナショナル・ジャパン
〒183 東京都府中市浅間町4-3 電話0423(69)2431

折疊焼香台



- 〈御用途〉
- 屋外供養
- 前卓など
- 本堂焼香
- 説教機
- 墓前供養

第七回・禅文化学林

天童寺拝登を終えて

副会長 大谷俊定

今回の拝登の旅は、禅文化学林のメインテーマである「シルクロードの芸術・文化」の最終テーマとしての位置付けをして、幸いにも六十余名の方々の参加を頂き、盛会裡に終えさせて頂きました。しかし、話をすゝめる前に、出

発時より飛行機の欠航、二天目的の一つとしての桂林が悪天候のため、スケジュールから除外しなければならなくなったこと。バスの故障と、まさにハプニングだらけの旅となりました。主催者として、誠に残念に存じますが、その間、ご参加下さいました方

方の、正に仏心豊かにして御寛容御協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

予定の二月十五日を一日遅れて翌十六日午前十一時半中華民航空機は大阪空港を離陸し約三時間の後、上海空

ウイスキーのお茶割りで一息つく。つまみは何もない。大陸らしく山も無い。ただ田園と民家の間を直走り。花家山ホテルには夕刻も遅く到着。夕食後、天童寺へつづ走るか、明朝走るか相談、夜中の〇時に決定。そのまゝ、ホテルに泊り、翌朝六時間かけて阿育王寺、天童寺へ向かうことになった。ホテルの夕飯、朝食とも塩分が少ないことを除いては、美味で、品数も多い。

さて阿育王寺に到着。黄色の壁が、小雨の中に映える。いよいよ到着したのだという興奮は堰を切ったように、私の前後横でするカメラのシャッターの音でいよいよ高くなる。雨で濡っている石畳は、人の足を早め、天王殿へと誘う。金色に輝く大仏、布袋和尚が笑顔で迎えてくれた。まわりの仏様は、どれもこれも巨大である。大雄宝殿参拝を済ませて、直ぐに第一の目的的天童寺へと急ぐ、バスでそう速くないが歩けば半日の道という



阿育王寺参道

道元禅師様が「典座教訓」の中で示された阿育王寺と天童寺とは、修行僧道元にとって正に意表をついた重要なところであることを思う。いかべながら、歩いて通られた旧道がどこなのか、きよろきよろと捜す。途中で小型のマイクロボスに乗り換え、松並木の道を走る。この道こそ、ご開山道元禅師様が七百年余前に登られた道だと思ふと胸があつくなってくる。一キロ

て頂いている大雄山主余語老師の導師のもと、全員で拝登諷経、感涙、知らぬ間に合掌にも力が入っている。峰岸副会長の回向の声が堂内に響く。他に参拝者はない。我々だけのリザーブタイムだ。ひたすら七百年前の御開山様を追憶する、この石畳、この柱、この地にてご修行されたのかと……。

長老との交換会が行なわれた。正面に長老、余語兩老師、桜井会長が並び、手土産を献上する。これに対し、参拝者一人一人に長老の書がプレゼントされる。鐔寺和尚がメッセージを下さる。交換会の三〇分はすぐに終わった。齋堂で夕食だ。美味だ、我々の口によくあう。次から次へと出てくる。目の高さにも運んでくる若い修行僧。どこにも見られなくなった姿がここにはあった。全部で十六種だったと言うが、食べ切れない。残念だが時間が無い、この次来るときは、松並木は歩いて拝登したい。もつとご開山の跡を慕いたいと思いがち天童寺を後にした。

翌日は、如浄禅師のお墓のある浄慈寺参拝。雨と雪の中を参拝、松田文雄先生の講話を聞かせて頂きながらの参拝。やはりこの雪の中、飛行機は無理と桂林を断念したが、水の都蘇州への途中、バスの故障でバスの中は大パーティー、酒もつまみも乏しいが心は豊か



天童寺にて交歓会

若者のエネルギーで熱気ムンムン。余語老師の歌い初め、とにかく、心の中に大きく印象深い旅だった。この感激は、やはり現地をおとずれた者でないといけない。

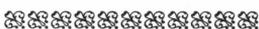
天童寺拝登

余語山主老師に随行して

最乗寺侍局 吉田高明

の次は、ご開山を胸に抱きながら一泊でいいから、天童寺で拝登したい。そして、いつ誰がおとすれてもやはり、ご開山様の足跡がけがされないようにだけはしておきたいと願う。

最後に大変お世話になりました余語老師、松田文雄先生に御礼を申し上げますと共に、参加各位の益々のご精進を祈ります。



昭和六十年春、全国曹洞宗青年会主催「天童寺拝登の旅」に最乗寺山主余語翠庵老師の随行として参加させて頂くことが出来ました。のは、誠に有り難い好因縁でした。二月十六日、上海に降り立つ。折しも街は旧正月（二十日）を迎える準備で大変な賑わいを見せている。町のあちらこちらに新年を祝う看板が立ち並び、迎春と云う言葉がその街並から何の違和感も無く伝わって来る。上海から杭州へ列車にて向かう。途中窓の外には延々と続く平野。杭州にて泊。

翌朝杭州を春雪の中バスで出発し、途中阿育王寺を経て天童寺一の門に到着したのはもう夕刻。此処でマイクロバスに乗り換える。車中に流れている曲が耳に心地良い。二の門、三の門を経て、天王殿の前に到着。小雨の降りしきる

中、一行を迎えてくれたのは、道元禪師をもそうして迎えてくれたであろう大きな伽藍だった。天王殿に入ると中央に大きな大きな布袋さま。阿育王寺でもそうであったが、グロテスクな感さもある。直ちに大雄宝殿に登り拝登諷経。香語に云く、

ある中国の青年が宗教は必要ない、なぜ必要なのか、と言ったと云う話を聞いた。四つの近代化が唱えられている今、中国では科挙の時代同様、競争社会に成りつつある。競争社会に代表される近

『春隣是の日吉祥の辰
天童の殿閣新なるを拝し得たり
仙客扶桑より海を超えて到る
肩を結び手を携う古風の人。』
折からの雨の為か、迫り来る闇の所似か、辺りは人の気配を押し込めてしまった様である。天童古仏、天童古仏と慕われた如浄禪師の氣息が全く感じられないのは何故か。

日本は欧米に比べて精神文化が十年遅れていると言われる。中国は更に十年遅れている様に思われ



上海の街

代文化の進歩は精神文化の荒廢の賜物か。文化の発展途中に於いては人間性の欠落は避けることが出来得ないのか。四人組追放以後、宗教の自由が認められたとはいえず多くの問題が残されているのは事実である。天童寺は新しくなった伽藍は確かに新しくなったが、その内容はと云うと残念と言わざるを得ない。同行してくれた中国国際旅行社の人が、言葉は違っても日本人が一番親近感を覚えます。なぜなら、同じ文学を使っているのですから。」と、話された。七百年十年前、如浄禪師から戴いた法恩を、今度は私達がお返しをする番である事は間違いない。中日両国の人々が手に手を取り合い、お互いの心を一にして、天童の仏法が益々高揚されん事を願うものである。

温かいお茶を戴きながら交歓会心づくしの薬石をご馳走になって、天童寺を後にす。翌日から、浄慈寺、寒山寺などを拝登し、上海にて中国最後の夜を過ごす。二十日午前零時を境に、街のあちらこちらで爆竹が鳴り響き火花が上がる。ホテルの屋上から、窓から。上海の街は厚い煙に包まれた。旧正月の朝、上海を飛び立ち一路大阪へ。一人の落伍者もなく、無事全日程を終了。全曹青諸師の法力相資くるお蔭と感謝する。

—ご寺院の豊かな明日をクリエイトする—

私達の仕事は 寺院運営企画・建築・設計・営繕工事

境内・墓地清掃保守管理施工

寺院用品・焼却炉など環境用品販売

●あらゆる相談をお待ちしております！

見積無料 ☎(364)0671~3

法律・会計相談も行っております。

—日本寺院株式会社—

〒160 東京都新宿区百人町1-13-2



第七回中国地方集会

宗教を現代に問う

〈広島大会〉

折哲雄先生の講演を熱心に聞き、三ブロックに別れデイスカッション、散会しても尚去り難い余韻があったことを、今なお生々しく記憶しております。

中国曹青連絡協議会主催、第七回中国曹青広島大会が、二月二十六、七の両日、風光明媚かつ文学の香にただよう景勝の地、広島県尾道市千光寺山上、ホテル金花園にて開催されました。

当初、中国曹青大会として、昭和五十四年二月二十五日、広島市東区戸坂くるめ木、現在地へ移転前の禪昌寺を会場に、第一回中国曹青広島大会が、中四国曹青設立の大会として、中四国地方の各県から五十余名の参集を得まして、メインテーマ「真の教化者像をめざして」講師、東北大学教授、山

その後、第二回の山口大会、第三回の島根大会(島一石見曹青)を経て、第四回の愛媛大会を成功裡に催し、その結果、発展的に四国曹青の設立を見ました。続いての第五回の岡山大会から中国曹青大会となり、第六回の鳥取大会で、隣県島二出雲曹青の自主参加を経て、今回第七回大会が一巡して、広島で開催され、島二出雲曹青も正式に加わり、中国五県六宗務の青年会の総てが一堂に会したところです。

も、連絡協議会の性格上、内容的には、いま一步総花的傾向を打ち破れない現状があります。今大会は、そこらをふまえ、またこの中国曹青設立の原動力となられた先輩御三方をお招きし、我々に実動の活力の注入を冀い、サブ講師としてのご提起をお願いいたしました。

中国教化センター統監長岡徹宗老師、広島県宗務所長坂上良道老師の御祝辞に続いて立たれた、全曹青会長桜井孝順師は、「全曹青十周年特別行事への協力に感謝の意と、今後ますます全曹青への結集を要請され、心あまる祝意に、一同感激いたしましたところです。期間中、ロビーでは、「ほほえみの石仏展」のビデオが映され、全曹青の活動に対するマスコミの反応に、同展參觀者はもとより、参会者も感心しきりでした。最初に、自坊を二度移転新築、新寺建立、広島禪の文化主催者、広島市禪昌寺住職横山正賢師が、「我々仏教者に今問われるもの。」と題され、次に、喫茶店辻説法、テレホン法話等、ユニークな特派布教師、岡山県笠岡市威徳寺住職長田暁一師が「宗門行持の現代化その生かし方と問題点。」と題され、最後に曹洞宗ボランティア会にあって、宗門内外で広く文化事業に携っておられる、山口県徳山市原江寺住職有馬実成師が「宗教者とボランティアリズム」と題され、各師いづれとも、持ち時間超過の執弁でありました。一応問題提起を終えた処で、松岡会長を司会に立て、更に三師に各五分間の補足説明を願い、以後会場を埋めた会員より、活発な質問、意見が出され、休憩を入れる

寺院専門の書道用具店
 その他中国美術工芸品

◎ 当店には塔婆専用開発した非常に木に強い毛切れのしない筆があります。

静岡市新川2-9-31 TEL.0542-81-8005

こともできぬまま懇親会場に席を移した程でした。

懇親会では、態々足を運ばれた、中国管区長藤津春久老師から御祝辞をいただき、桜井会長の発声で乾杯、昼間の熱心な研修の疲れをいやしました。

日程第二日(二十七日)

午前八時三十分から、メイン講師、毎日新聞大阪本社学芸部、横山真佳先生により、「宗教を現代に問う」と題し、講演をいただきました。

ジャーナリストの鋭い目で、正面から批判を受けにくい我々に対し、歴史の正しい見方(グローバル的見地)また積極的な時代認識における、自己の身の置き所の模索をもっと研鑽すべきではないか。

特に、一、仏教に近代(主として個人原理の西洋的概念)が身についていないのではないか。二、仏教は、近代の国家論を持っていないのではないか。三、宗教のモラルの質(宗教倫理)の問題。批判を受けにくい立場にあること。等、我々の現前に立ちはたかる、重要諸問題を赤裸々に示されました。それを受け、活発な論議が繰り返され、「まとめ」より、次回大会でこれらの批判を一つづつ掘り下げていこうという積極的な提案を一致して採択し、次回、島根大会(島二出雲曹青)に引き継ぐこ

とになりました。

前日のサブ三講師の講演を聞かれ、急遽用意されていた講演資料をボツにされ、早朝三時迄も講演

資料を練られていた横山真佳先生の姿に、我々の有るべき姿を見た様な気がいたします。(記・久我孝顕)



祖録輪読会

眼蔵の読破をめざして

茨城県曹洞宗青年会

去る二月八日〜九日、当曹青会恒例の「祖録輪読会」が県内多賀郡十王町東泉寺において開催された。

この輪読会は、「正法眼蔵」をはじめ祖師方の著わされた祖録をひもとき、全てを読破することを目的として、県曹青研修部門の委員が担当し、年度の計画として、昭和五十二年よりその研修会をもった。現在では年数度の勉強会が県内寺院を会場として、一泊〜二泊の予定で催されている。

この輪読会の方法は、参加会員は予め、定められた資料とそのパートを予習して、当日のぞむもので、参加会員よりの質問を受けたり、むつかしいところは全員でその意を話し合い、種々の参考文献

- 『宝慶記』
- 『典座教訓』
- 『学道用心集』
- 『伝光録(抄)』
- 『同行訓』
- 『修證義(受戒入位)』
- 『教授戒文』
- 『坐禪用心記』
- 『正法眼蔵随聞記』
- 『正法眼蔵弁道話』

等々を論読してきました。

今後は青年会員のみならず、祖録に親しむために広く多方面に呼びかけて、お互いに研鑽してまいりたいと思います。(太湖)



前編	修証義にもとづいて		
第1章	自己の章	第2章	仏に照らされる章
第3章	出合の章と決意の章	第4章	共通のいのちを共に生きる章
第5章	安心と感謝の章		
後編	清らかな生活文化		
第1章	行持	第2章	大衆一如
		第3章	対大已
		第4章	礼拝儀則

佛教の生活 ハンドブック

- 1冊500円(送料200円)
- 50部以上1割引
- 100部以上1割5分割引
- 送料は宗務庁頒価送料

申込先〒105 東京都港区芝2-5-2 曹洞宗宗務庁内
全国曹洞宗青年会宛



◎各県曹青にお願い◎

当県曹青が結成され、明後年(昭和六十二年)が創立三十周年に当たります。記念事業として左記の

資料のパンフ、ポスター、予算書、企画書等お送り下さるようお願い申し上げます。

又、企画に当たっての、ご助言をたまわれれば幸甚です。

◎茨城県曹洞宗青年会

創立三十周年事業(予定)

- 一、現代名僧墨跡展
- 一、県内寺宝展
- 一、洋上セミナー(大洗・北海道)
- 一、因縁会(法縁会)

事務局だより

◎年度事業終了。

1月30日・31日開催された禅のつどい中央研修会西日本会場が九州博多に於て好評裡に円成し、続いて2月15日に行われた第7回回禅文化学林・中国・天童山参拝の旅―は思いがけず雪の出迎えを受け、桂林訪問を断念せざるを得なくなりましたが、10周年事業のしめくくりとして浄祖の膝元に大法の源流を訪ねる価値有る旅であったと参加諸兄の胸に刻まれたことと思えます。次いで3月7日・8日と行われた後期禅のつどい中央研修会神奈川会場も、人間関係のセミナーとして多くの指針が示されました。

それにつけても今任期中の行事は盛り沢山にて全国各地の会員、宗門御寺院を初め御縁をいたたい

一、記念講演会
一、お茶会 等々

以上

※資料送付先

〒茨城県水戸市八幡町11-69
祇園寺内
茨城県曹洞宗青年会宛

た方々も多勢でした。ひとつひとつの仏種子が互いに育まれ今後へと連なっていく事と信じます。

◎昭和60年度総会5月8日・9日(於宗務庁)開催。

会則に従って次年度にバトンタッチする為の準備がすすめられております。10周年というステップをふまえ、新会長、新役員選出の重要な会合となります。多くの会員のご参加をお願いします。

◎「曹書通信」

紙面も読みやすく、又、保存できるようにと第25号よりスタイルを一新して早くも第37号の出版に至りました。

各地の青年会の活動、あるいは個人の実践などご紹介のページとして、「ボイス・オブ・ローカル」を設けてみましたが、今一つ、原

稿入手には四苦八苦の現状です。地方の活動、シビアな又ユニークな意見、個人の実践など情報をどしどしお寄せ下さい。

通信は会員相互の和を広げる唯一の新聞です。より紙面の充実を念じてバトンタッチ。長い間、ご協力ありがとうございました。

◎講演録『縁蔭説法』

既に御承知の様に講演録が発行されました全国各地において青年会事業として講演いただいた巾広い分野で活躍されておられる方々のお話をそのままにしました。

各講師先生の生きざまを通じ、宗侶としてのあり方に対する指針として、又、教化活動の一助としてご活用いただける内容十分のもので存じます。残部が少しありますので、お申し込みは曹青事務局

入会のご案内と会費納入のお願い

宗侶としての生甲斐を確かめ、心から話し合える場に参加しませんか。18才以上の宗侶は、誰れでも入会できます。40才までの方は、正会員。40才以上の方は賛助会員として参加していただきます。

会費は年額 一、〇〇〇円
賛助会員は一口 一、〇〇〇円です。

本年度も総会を開催し、会員各位のご協力により、事業計画にそってスタートいたします。
前年度まで一三〇〇余名の会員

《振替》東京一―三〇五三九番
《蔭丁》B6版二四六頁
《頒価》一冊 一、五〇〇円
50冊以上1割引
100冊以上1割5分引



1月30・31日 後期禅のつどい中央研修会西日本会場(於・福岡県)

2月4日・5日 事務局会、理事會、評議員會

2月15〜20日 第七回禅文化学林(中国天童山の旅)

2月26・27日 中国地方集會(於・広島)

3月7・8日 後期禅のつどい中央研修會

4月15・16日 本部事務局會(於・神奈川)

が登録されておりますが、会費未納の方が多数あります。どうか全曹青発展のため会費納入をお願いします。尚、地区単位曹青にてまとめて納入のときは、納入会員名を書き添えてお願いします。

又、事務局台帳の充実を期するため、振替用紙裏面かハガキ等にて生年月日、住所、寺院名、地区曹青役職等なるべく詳しく書き添えて、事務局宛にお送り下さい。
振替・東京一―三〇五三九番

破草鞋

全国からきれいな水のあるところを百カ所選ぶ「名水百選」が、環境庁から発表された。水質保全の意識高揚にあるとか。

都市化が進むにつれて郊外の大自然は破壊される。山の木々が伐採され緑を失うと、当然、水不足をもたらす、自然の摂理がわからぬでもなからうに。

水はもつぱら、量の問題になつてきた。しかし、最近では、きれいなおいしい水を求める者が多く、ミネラルウォーターが販売されはじめた。

日本人は、松林をゆく風の音、波の音、谷川のせせらぎ、虫の声を音楽として聴くことができ、西洋人には雑音としか聞けないらしい。

峰の色 谷の響きもみなながら
我が釈迦牟尼の声と姿と
深山幽谷の御本山での御開山の感慨である。又、「杓底」残水の御教示も永平寺を訪れた者でないと思われない。
先祖が自然と共に生きてきた世界や、水に抱いていたありがたみをやっと探しはじめたのだ。今こそ、「山水経」「溪声山色」の尊い教えを布廷教化すべき時ではないだろうか。(H)